

インドネシア  
「グリーン・ウォール」の普及と拡大  
現地からのお便り（2018年7月～2019年6月）

2019年8月  
コンサベーション・インターナショナル



2008年から始まったダイキン工業、グデパングランゴ国立公園、そしてCIのパートナーシップは11年目を迎えました。グデパングランゴ国立公園での取り組みは、コミュニティによる合計300ヘクタールの森林再生により、国立公園を守り、同時に地元コミュニティに経済的な便益をもたらす「グリーン・ウォール（緑の壁）」を築くものです。

### 森林再生地

毎月のモニタリングを継続しています。植えられた木々は、極端な気象や病気に対して十分に強くなるまで、大きく育ちました。40人の地元コミュニティメンバー、そして15名の国立公園スタッフと共に2018年10月に調査したところ、生存率は95%で、12万本植えた内の約11万4千本が生存していました。





グリーンウォールの木々の様子

## 視察

2018年10月、ダイキンの皆さんが現地を訪問しました。地元パートナーとの対話などを通じて、10年間のグリーン・ウォール・プログラムの旅路と森林再生の成功について共有しました。現地では、ダイキンの皆さんに加えてインドネシア環境林業省やメディアも、グリーン・ウォール・プログラムの地元コミュニティと地元経済への貢献を直接見ることができました。



また2019年2月には、CIのアジア太平洋地域代表の Richard Jeo が CI インドネシア代表の Ketut S Putra と共に現地を訪れ、現地の取り組みを見ると共に、地元コミュニティと対話をしました。





## 環境教育

10月のダイキンの皆さん訪問とあわせ、20人の小学生が参加する絵のコンテストをグリーン・ウォールのサイトで実施しました。



## 看板

現在、5つの看板がサイトにあります、毎月すべての看板を見回っています。4つの看板は良い状態です。1つは修復が必要だったため、現在、建て替えの準備を進めています。



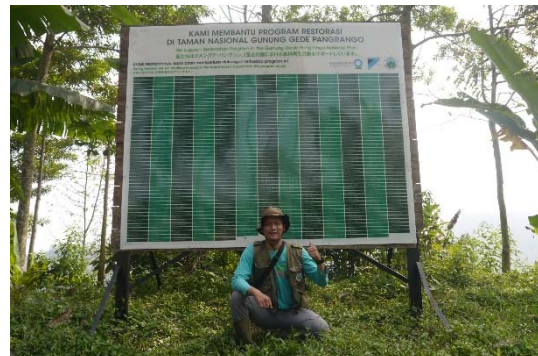
看板1号



看板2号



看板3号



看板4号



看板5号

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。